高等学校韓国朝鮮語教育研修東京大会　2013 年 11 月 9 日(土)・10 日(日)
於：駐日韓国大使館　韓国文化院

一日目　11 月 9 日(土)　　高大接続をめぐる課題（セッション）
12：00～受付開始
13：00　開会

●開会の集い
－役員あいさつ（JAKEHS　山下誠会長）
　1999 年 8 月の設立当時に比べ韓国語教育取り巻く環境変わった。教育が広がりを見せた。学校教育の中でキチンと位置付けられる教育になっているか、どのような位置づけなのか問われている。近来の財政の問題もあり、ただやっているというだけで成果を出さなければ整理されてしまう。JAKEHS の第 2 十年期のきっかけになればと思う。

－後援団体代表あいさつ
・東京韓国教育院　南貞順院長
　日韓は近ければこそ生じる問題も多い。互いを理解するためには互いの言葉ができる人がもっと増えなければならないし、もっと心を開き、率直に情報を交換し合わなければならない。今後も JAKEHS の活動を見守り支援していく。

・国際文化フォーラム　水口景子事務局長
　国際文化フォーラムは韓国語、中国語、すべての外国語の授業が意味のある時間になるように様々な事業を進めている。

－各ブロック活動報告
・東ブロック　武井一
　モイム日時と内容報告
・西ブロック　任喜久子
　桃谷高校が本拠地。忙しくて頻繁な活動できていない。刺激をもらって帰りたい。

●高大接続をめぐるセッション（司会：黒澤先生）

－趣旨説明　武井一
　高大の教育接続は様々な教科で問題になってきた。韓国語はこれまで、扱う学校も生徒数も少なく、希有なケースだったため問題にならないできたが、講座も生徒数も増え、大学でも韓国語学習を続けたい生徒、もっと専門的に学びたいという生徒も出てきた。
　現在の状況は、せっかく高校で 1 年～3 年間、韓国語を習っても大学でまたカナタラから始めなければならないことがほとんどである。大学は大学で、高校で習ってきたのにこの程度かという意見もあるであろう。お互いの要求や、接続に関しての意見を交換しあえば設計図が見えてくるはず。高大では教育の視点が違うだろうが、一致点や違いについて考える場になればと思う。

－高校の韓国語教育の現状について

1）アンケート調査の結果を基に（九州産業大学　長谷川由起子先生）

・　高校の英語以外の外国語開設コース数（グラフ）

・　大学の英語以外の外国語開設コース数（グラフ）

・アンケートの実施

調査１：・英語以外の外国語教育の実情調査
　　・英語以外の外国語教育担当者対象
　　・2011 年 5-7 月実施

調査結果の解説（表）
・　地域別設置言語の特徴/韓国語は関東が圧倒的に多く、近畿割合高く、九州は中国語、韓国語のみ
・　言語ごとの学年配置の特徴/韓国語は 2 年次が多い
・　科目形式は必須選択が最も多い
　詳細は資料差上げるので参照（※発表終了後に協力高校中心に資料配布）

調査２：・高校生の外国語学習に対する意識調査（マークシート方式）
　　・英語だけを学習する生徒対象/回答者 169 人
　　・英語以外の外国語を学習する生徒対象/回答者 192 人（仏語 1 校、他全て韓国語）
　　・2013 年 9-10 月実施

調査の中間報告（表）

2）高校の現場で教えている者の感覚から（鶴見総合高等学校　山下誠先生）

・　韓国語を選択する生徒たちの学習動機
　動機には「統合的動機/言語そのものに興味がある、その言語を話す者たちと一体化したい-純粋なる動機」「道具的動機/受験、将来就職に有利だから」があり、韓国語の場合、統合的動機がほとんどだと言われてきた。しかし、最近は「何となく好き、韓国（人）かっこいい…等というふわふわした動機ー「誘発的動機」が 6～7 割を占めているよう。そのような動機で始めた生徒は「実際学んでみるとむずかしい」と言って不機嫌になり、辞めることも多い。

・　「プチ既修者」の出現
高校に来た段階で既に自分で勉強していて文字が読めたり、文法を知っているつもりいたりする生徒がいて足並みがそろわず、なかなかやっかい。大学ではもっと困っているのではないか。

・　高校での韓国語教育が目指すもの。
　他の外国語教育と同じで学習指導要領で示す目標に沿って教えている。つまり小学校で外国語学習の体験をして慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を養い、中学校でコミュニケーション能力の基礎を養い、高校でコミュニケーション能力を養う。
　学習の最終目標は生きていく能力を養うものなので小・中・高の目標が混じりあった重層的な教育構造になっている。ここから、小・中・高・大それぞれの接続課題が出てくる。

・　高校で韓国語を習った生徒が大学でどのように続けているかの事例報告

－大学での韓国語教育の取り組みについての報告

●目白大学の場合

第１部：目白大学韓国語学科の現況（韓国語学科　小林寛先生）
・　学科の沿革と現況（表 1）
1. 入学者の学科選択理由（アンケート結果、以下同）
1）留学が可能（後発の大学として、話せるようになる実用主義の韓国語を目指し全員留学を掲げる）
2）ネイティブ教授が多い（日本人 2 名：韓国人 6 名）
3）二重学位取得が可能（2、3 年次韓国の大学で学び両方の学位取れる枠 20 名有）
4）カリキュラムが充実している
2. 韓国語の学習動機について
3. 動機分析結果
4. 韓国語学習の目的について
5. 学習の目的分析
6. 韓国語の上達のため改善してほしい点
7. まとめ
入学生の内訳様々なので、出来るだけレベルに合わせて教育できるようにしている。
・プレイスメントテストを行い 4 段階の能力別クラス分けをしている（プレイスメントテスト用紙の拡大コピー掲示）
・検定試験のレベル別受験者数と結果一覧掲示
しかし、すべてのレベルに対応した内訳や教科内容には出来ていない。

第２部：日本における韓国語教育の戦略（韓国語学科長　金敬鎬先生）
1. 第 2 外国語としての言語戦略（英語に疲れた生徒たちにグローバル時代のグローバル言語、地域言語としての必要性を強調）
2. モチベーション提高戦略
3. システム構築戦略
4. 高大連携のための教育的課題

（※以上パワポ形態のレジュメあり）

●　その他の大学

1）　東京成徳大学の場合（水谷清佳先生）

－高大接続の取り組み
・韓国語を学べる国際言語文化学科の特徴
英語、中国語、韓国語の中から好きな言語を 1～3 つ選んで履修する形式になって 4 年目。2 つの言語を学ぶ生徒が多い。
・文化科目も充実。韓国語 1 年次はコミュニケーション、作文、講読などの科目を設置。各科目の教員同士が連携を取り相談しながら授業進行。内容重複がなく学生把握しやすい。
・語学的には検定に特化した科目も設置。

－現況
英中韓 3 言語のうち、今年度は韓国語選択者が最も多かった。

・学生のパターン
① 未学習者
② 高校での学習者
③ 独学の学習者
プレイスメントテストを行い入門クラス（カナタラから）、初級クラス（2年次の学生と共に文法学習）に分ける。
・学習内容
入門クラス　音声学ベースの発音学習基本
初級クラス　文法＋発音変化
・２つのクラス分けの問題点と対策
問題点：既修者間のレベルが様々
対策：
①入学前教育の実施
・インターネットによる10回の基礎講義受講
・文字の仕組みや韓国語に関する書籍購読、感想文提出義務付け…など
②入学後の対策（留学希望の学生たちのニーズや学習者のレベルに合わせるために）-
・新入生海外研修の実施。交流校訪問。
・ＰＣ利用した教育
・CALLシステム利用による発音指導強化
・e-learningシステム利用による学習者レベル別指導強化。
・地域ボランティア通訳士として派遣
・交換留学生派遣

ー-まとめ
・問題点
1. 学習者のレベルの違いを学習前教育だけでカバーできない
2. プレイスメントテストを行っても習熟度と希望レベルのずれなどが生じる
3. 既修者のモチベーションが維持できない
・ 課題
1. 既修者のレベル別にクラス分けたいがクラス増設に限りがある
2. クラス開始後にレベルの差が生じる。特に発音変化。
3. 留学先の選定で、希望大学が重複するなど困難がある。
4. 留学後のモチベーションが高まらない。

2) 恵泉女学園大学

(1)学校の特徴（堀芳枝先生）
　学園全体としては平和を目指し、自立した女性を育てる。大学としては多文化共生、アジアの共生、市民社会の連帯を目指して様々なプログラムや科目を設置してきた。
　初めは東南アジアに強く国際協力としてタイなどのNGOに学生派遣させるためのプログラムを立ち上げていたが、韓琉ブームで韓国語希望者が増えていった。
　アジアの各国に行ってフィールドワークを行い実体験に基づいてモチベーションを上げさせる。
　2013年のカリキュラム改編で国際社会学科に東アジア社会コースを設置。英語、中国語、韓国語や東アジアの諸言語を該当地域への短期留学によって語学力を伸ばし、専門知識を卒論などで育て、日本語教員資格を与え東アジアの国々で活躍できるようにしている。
　第2外国語履修は必修だが、中でも韓国語を選択する生徒が非常に多く、2012年度は韓

国語Ⅰ履修生が 96 名/新入生 412 人中、2013 年度 110 名/410 名中を占めている。
　その中で語学留学に先に行って話せるのに、または高校でやったので韓国語Ⅰを取りたくないという不満の声が上がったので今年から既修単位に関する細則を変えた。

（細則内容/資料 1）
1.　対象とする既修得単位
　大学入学前（高校卒業時）までに取得した語学検定資格、または高大連携科目について、既修得単位として認定する。ただし「4 単位」を超えないものとする。
（例）韓国語 4 級以上の資格があれば、韓国語Ⅰ・Ⅱを既修得として認め、1 年次から韓国語Ⅲ履修を認める。
2.　既修得単位申請と認定の流れ

　高校で既に学んだ学生たちは韓国語Ⅲから履修して、短期の語学研修や 1 年間の提携大学留学に行きやすくしている。平和教育に力を入れ必修で中国、韓国の歴史認識、東南アジアの女性問題などについて学ばせ、入り口は K-POP でも 4 年後の卒業時には韓国やアジアに関する知識、社会認識を持った女性に育つようにしている。

(2) 韓国留学の現状について（李泳采先生）

1.短期語学研修
期間：約 3 週間
研修先：梨花女子大学、聖公会大学と協定を結んでいる
内容：１日 4 時間の韓国語授業、文化体験、学生間交流

2.長期留学
期間：1 年または 6 ヶ月
留学先：新羅大学（釜山）、聖公会大学他
内容：現地実習Ⅰ-Ⅳ。現地大学で自由に科目を選択し単位を 10 単位まで認める

恵泉の語学留学のメリット
1.　安心　事前勉強会（文化や歴史教育）、引率（3 日間だけ）、現地報告（毎週 1 回ネットで日本に報告させる）、事後勉強会（カルチャーショックなどの緩和）
2.　4 年間で卒業が可能　入学と同時に留学デザインサポート。現地授業の専門科目への変換で単位取得しやすく。
3.　経済的支援　語学研修プログラムはすべて日本学生支援機構（JASSO）の支援を受けて行われている。

● コメントを寄せた大学の紹介

(1) 二松学舎大学（渡辺先生）
中国文学科の中に韓国語専攻がある。ここ数年韓国語既修者が入学するようになった。既修者に対応すべくカリキュラムの工夫考えている。10 年後を見据えている。

(2) 近畿大学（文芸学部　佐川先生）
・授業：文芸学部内韓国語コース（1 学年 10 名程度、既習学生 2～3 割）
各学部で開講される第 2 外国語としての授業
・既修者に対する配慮：組織としては特別ない。すべて個別の対応（課題別途化。長

期休暇時の語学研修参加督励など、交換留学派遣指導など）
・高大連携：英語でやっと高大連携の動きがある。韓国語はニーズも少なく組織として動くことは難しい。

● その他の大学の続き

3） 帝塚山学院大学と韓国語専攻を持つ関西周辺大学の事情
（帝塚山学院大学リベラルアーツ学部韓国・韓国語専攻　古田富建先生）

－帝塚山学院大学リベラルアーツ学部韓国･韓国語専攻大学の特徴
体験を重んじた教育
・カリキュラム内半年留学（希望者ほぼ全員を高麗大学語学堂に送り 15 単位取得させる希望者 4 人を 1 年～1 年半の交換留学に送り、且つ 4 年間で卒業できるようにする）
・留学生と一緒に勉強できる
・フィールドスタディ（韓国文化院でのイベント、四天王寺ワッソなどの祭りへの参加、K-POP 観覧）

－高大連携の取組み

・ 系列高校での韓国・韓国語関連授業実施
帝塚山学院中学高等学校「創究講座」（興味に基づいて選択して学ぶ）の 1 つとして前期後期各 13 回（土曜日 3～4 時間目）実施。来年度韓国修学旅行に備え今年度から韓国・韓国語講座実施。大学でカリキュラム作成、授業担当。
（内容）
1. 韓国社会に概要
2. 民族分断（北朝鮮問題など）
3. ハングル習得①
4. 韓国文化について（訪問地を中心に）
5. 韓国文化院訪問、テコンドー体験
…など

・ 既修者に対しては個別対応（テスト結果で飛び級認めたり課題与えたり）。
（他大学の場合　規模の大きい大学では飛び級の制度が整っている反面、小さい大学ではないのが現状）

・ オープンキャンパスに合わせ韓国文化体験イベントを行ない高校生を中心に韓国語、K-POP ダンス、うちわ作り、韓国料理などを体験させている）

● 中国語教育の高大連携について（国際文化フォーラム　水口景子事務局長）

・ 中国語教育での高大接続が問題になった時期
2006 年「高等学校中国語研究会」大阪大会で「高校中国語教育が目指すもの-高大連携の可能性」というテーマで取り上げた。高校で中国語を学ぶ生徒が 18,000 人位になったころだ。既修者の数が増えたから起きた問題。

・ 高大連携の形
生徒対象
1. 大学で既修者クラス設置

2. 大学で留学生を高校に派遣。高校生のモチベーションアップ。窓口は国際交流課、留学生課。
3. 高校生に公開する大学の講座を設ける。ものによっては高校で単位として認める。

教員対象
1. 大学が高校教員向けに中国語研修実施
2. 大学が科目等履修講座、夏季集中講座、教員免許認定講座を開き、免許取得を援助。
3. 大学の教職課程に数コマ、高校の中国語教師招いて話、授業聞ける時間設けた。

－アメリカでは AP プログラム（アドバンスト・プレイスメント）という講座を高校に設け、高校でそのプログラムを受けていれば大学で単位として認められる制度が整っている。日本語にも中国語にもそのプログラムが設けられている。

－「学習のめやす」の紹介/高校大学の教育視野に入れたガイドラインとして作られた。

●教育再生会議で「韓国語センター試験見直しが必要」とされている。それに代わるものとして学習到達度テストが浮上。そこに第 2 外国語が入るかどうかという問題がとても重要。入れば裾野が一気に広がるし、入らなければ大学での第 2 外国語教育が厳しい状況にさらされる（黒澤先生）

● 質疑応答タイム（※事前に質問がある人はメモに書いて提出するよう依頼済み）

目白大学への質問
Q：プレイスメントテストでインタビューは？
A：筆記のみ。新入生 80 名をすべてインタビューできない。
ただし、秋学期や進級時のプレイスメントテストでは個別にインタビューすることある。

Q：ネイティブに近い学生への対応は？
A：韓国文化、韓国語教育法研究させる。外国人に対する韓国語教育資格授与する制度があるので、資格取らせる。

Q：二重学位取るための入学後の手続きは？
A：手続きは特になく、2 年間留学を希望し二重学位希望だと願書に記載。学費無料の交換留学の枠は 18 大学（20 キャンパス）で 1 つずつあるが、春学期の成績順に選択権が与えられるため、希望大学に入りそこで学位が取れれば取得できる。現在 20 の枠が全部埋まっていないのが現状。韓国で 2 年間の単位を取るのは大変むずかしく、学位取得を諦める学生も多い。

東京成徳大学への質問
Q：CALL や e-learning の効果は？
A：CALL/教員と当事者の学生、他の学生が互いの声を聞けるので発音を強化できる。
授業評価で発音がよくなったとの声が上がっている。
e-learning/授業中に課題を出して提出させる。e-learning 上に音声をアップしてタイピングさせるなど。発音を自宅や学校で e-learning 上にアップさせ教員が聞いてチェック。タイピングのスピードが急激に上がった。

恵泉女学園大学への質問
Q：大学間単位互換を今後進めたいと考えているか。そのような取組みあるか。

A：韓国語関連では現在考えてないが、多摩地域の大学間で他の教科ではやっているので、希望があれば検討する。

－卒業後の就職状況について簡単に説明してほしい

・ 目白大学
就職率　2012 年度 91％、2013 年度 86％、韓国語生かした就職 25％～30％ではないか。

・ 恵泉女学園大学
中小企業にはアジア向けの企業や韓国に進出予定の企業が多い。面接でアジアに関して何をしてきたかと聞かれ、アジア関連のゼミや韓国語学習、留学が就職につながった事例がよく聞かれる。航空会社でも韓国路線は唯一黒字路線で、インターンの学生から韓国語を取っておくべきだったという声も聞こえる。

● 大学生たちの現状公開と「話してみよう韓国語　東京中高生大会」への寄付依頼

・ 学生実行委員長　モテギクミさん　法政大学国際文化学部 3 年
・ 実行委員　タマイシオリさん　専修大学経済学部 2 年
・ 書記　ツノダさん　東京外国語大学朝鮮語専攻 2 年

・ タマイシオリさんの経験談
10 年前の韓琉ブームがきっかけで学び始めた。高校では土曜講座で週 1 回学んだ。
附属高だったので大学でも同じ先生に学べ、既修者なので 1 年次から 2 年生のクラスで学べた。高大接続がうまく出来た。

・ 学生実行委員長より
今年度も「話してみよう韓国語　東京中高生大会」が 2014 年 2 月 2 日に開催される。企業からの寄付や助成金でまかなわれているが、最近の社会情勢で寄付が半分に減ってしまい困っている。千円でもいいから寄付をお願いする。（※一日目終了後に集金）

連絡事項
・ JAKEHS 入会のお誘い（大会会費 2 千円（納入済み）+千円で入会可能）
・ 明日は 8 時 30 分会場、9 時開始
・ 懇親会は文化院向かいの「とんちゃん」（韓国料理店）で 18 時より（会費 5000 円）
・ 山下誠先生が今年のハングルの日に「国務総理賞」を受賞されたことに対するお祝い
・ 東京韓国教育院からの教材配布（単語カード、小説「母をお願い」韓国語版、日本語版）の案内とお礼

二日目　11 月 10 日(日)　　授業研究
8：30～受付開始
9；00　開始
1）－文化祭「第二外国語」多言語での展示の取り組み-（大阪府立花園高校　任喜久子先生）

－はじめに

テーマ設定のねらい：単元として 6 時間のまとまった時間できること。どの学校でも取り

組める内容。

1. 学校の概要
   創立 51 年、普通科 7 クラス（2 年生 6 クラス）、国際教養科 2 クラス。カリキュラムは異なる。
2. 「国際教科」とは
   国際関係に関する学科。1992 年より大阪に 9 校(9 学区）。学校改編により誕生。
3. 第 2 外国語の授業の扱い
   科目：韓国朝鮮語、中国語、フランス語（学校独自で設定可能）
   単位：第 2 学年で 2 単位選択必修。国際教養科のみ履修可能。
   担当者：非常勤講師（人材バンクから派遣、社会人講師、免許不要、年間の授業時間制限あり）

－文化祭での「第二外国語」展示の取り組み

1. 内容
   3 言語（中・韓・仏）の授業の様子・取り組みを校内外で紹介する場を設ける。

2. 目的

① 英語以外の外国語授業の内容、取り組みを校内外に宣伝・普及
② 英語重視の雰囲気の中で英語以外の語学の授業を守る
③ 3 言語の教師の協同作業の場を設定
④ 校内で生徒の発表の場を設定
⑤ 外来者、保護者の参観
⑥ 第 2 外国語展示コーナー『はなぞのワールド』」（多くの国籍の人が集う場(●●ワールド）。大阪独自の表現。

3. 経過

・文化祭「花園祭・文化の部」毎年 9 月第 2 または第 3 土日
・6～7 月に生徒会へ文化祭参加企画案を提出→職員会議で了承
・3 言語の担当者へ提案。アドバイス。

4. 教室での取り組み
   3年　普通科 31 名の取り組み。計 6h
   (選択 2 単位；昨年度から開講)

   －毎授業開始 10～15 分は語学学習
   ・ひとこと会話
   ・教科書「ことばのひろば」の語彙学習
   (文化祭後の授業のための事前学習)

   －文化祭の展示物作成活動
   ・夏休み前　2h
     グループ分け、テーマ設定（ワークシートに記入、提出）
     夏休み中に調べや画像取得
   ・夏休み後　3h
     グループごとの作業、教師は巡回
   ・文化祭後　1h

クラス全体での講評と評価
グループごとの作品評価（コメントと 1～4 位決定）

－成果と反省
・予想以上に真面目に楽しそうに取り組んだ。
・グループ責任ということで、どの生徒もそれなりに活躍
・自分たちで選んだテーマなので、他のグループのテーマに関しても関心示した。
・自分たちで教えあっていた。
・初めは不安げで消極的だった 3 言語の講師たちが前向きな考えに変わった。
・生徒会から展示をもっと目立たせ、アピールするようにとの要望受けた。
－次年度への課題
・早くから具体的な計画立てる。
・評価表（ルーブリック）を事前に作成し、3 言語の担当者と共有する。
・事前にテーマに合う語彙・表現の学習内容をどの程度取り入れるか。テーマをどう決めるか再考する。
・展示物以外の発表の可能性探る。

（※以上パワポ形式のレジュメ有り）

－作品の紹介（写真）

●司会（左美和子先生）政権が変われば第二外国語に対する予算もガラリと変わってしまい、これからはアピールしていかなければ予算が削られる。

質疑応答

Q：評価は？
A：出来た作品重視（10 点）（最もよく出来た作品に 10 点、次のランクに 7 点、残りは 5 点…というふうに）、協同で取り組んでいるかどうか、ワークシート提出、締め切り遵守などの作成過程（10 点）の計 20 点満点で評価。

Q：授業中に生徒同士での発表は？
A：何をテーマにしたかは発表させた。

他に（感想、意見）
・授業と発表をどう結びつけるか、出来上がった成果物を生徒同士でどう共有するか、他言語の講師間でどのような協同作業ができるか、応用や模索が可能な取り組みだ。
・韓国語や第二外国語をもっとアピールする時代に来ている。

2）教育実習の実践報告（神田外語大学　瀧原理乃）

1. 実習内容
・実習期間　10 月 1 日～21 日（3 週間）
・実習校　　鶴見総合高等学校
・担当教諭　山下誠先生
・実習科目　韓国語

2. 参加型授業

どのような教材を使えば生徒が楽しんで授業に参加するか。
・ プロジェクター
・ PC（PPT、レコーダーなど）
・ かるた大会（※映像で紹介）

3.シンタクス
日本語と韓国語は文法が類似しているので、チャンク毎に切って読むことで内容理解がしやすい（チャンクリーディング）

4.授業の流れ
《基本的な流れ》

① Oral Introduction=聞き取り	大	
② Input=韓国語の音声を聞く	↓	音をしっかり
③ Intake=韓国語⇒日本語訳（チャンクリーディング）	↓	理解させる
④ Exercise=韓国語⇒韓国語	↓	ために
⑤ Output=日本語⇒韓国語訳	↓	とても重要
⑥ Grammar=文法学習（ペアワーク、発表）	小	

5.英語教授法を韓国語に応用
・英語
既修者がほとんど⇒All English 可能
・韓国語
未修者がほとんど⇒All English 困難
⇒韓国語聞き取り＆話してみることからスタート

韓国語会話文導入
◆教員の流れ
1.状況説明（どんなことを言っているのか説明）
2.二人で会話文を話す（キーワードを強調して２回ずつ話す）
3.生徒へ内容について質問（キーワードを聞き出す形で質問）
※わからない場合はもう一度話すこと
◆実践
オリジナル教材のダイアローグを山下先生と二人で実演

6.今後の課題
・機材を使いこなす（スライド、レコーディング機材の活用）
・発言者に拍手（英語教育で学んだ。モチベーションを上げ発言しやすく）
・体を動かす活動（椅子取りゲーム、人生ゲーム等）
・教室外、学校外での活動（例えば新大久保でインタビュー）
・文化的なゲームやチマチョゴリを着るなどの体験

-大学の指導教授からのコメント紹介
1.授業の雰囲気づくりでは生徒の関心を引くためパワーポイントを使って視覚的に訴えていた。
2.学習事項の選択で生徒の身近なことを言わせるということでうまく関心を引いていた。
3.“를/을”“”요/어요”などの文法事項を無理なく導入できていた。特に終結語尾の“아요/어요”を１年生の秋の段階で導入することはむずかしいが単語全体を塊として覚えることで乗り切っていた。

4.大学の授業のような文法を分析するやり方では高校生はついてこない。分析を行わないやり方なので高校生が必要以上に緊張することがなかった。
5.時間数が限られている高校での授業では生徒を飽きさせない工夫が必要だと実感した。

◆山下誠先生の補足

※瀧原さんと同じ授業を他のクラスでやったときの様子を、映像を見せながら解説。

ー授業の流れ

暗記と会話練習
・ペアで役割決めて
・ダイアローグの練習
・内容確認
・目標設定（ルーブリックの活用/頑張りポイントを△〇☆で自己評価させる）
・演技のための練習（ペアが離れて大きな声で会話練習など）

録画とフィードバック
・廊下を歩きながら←体を動かしながら＆現実場面
・教室内で練習
・準備できたペアから廊下に出てきて
・生徒の様子は？出来は？
・ねえねえ、見せて、見せて！（録画をみんなで見る）

「書き」と文法解説
・「音」と「文字」のむすびつけ⇒ハングル抜きプリントに書く
・文法の解説
・つづり字と発音の違いの確認

（※以上パワポ形式のレジュメあり）

質疑応答
Q：実習前、実習後で感じた違いは？
A：文化的なことや留学体験のコラムなどを取り入れた授業をするつもりだったが、授業案づくりでイッパイイッパイで手が回らなかった。教科書がないので大変だった。
Q：大学では文法分析の方法で教えるが、戸惑わなかったか。
A：“아요/어요”の形でチャンクで塊として教えることに初めは抵抗があったが、それで覚えてしまって後で分析したほうが理解しやすいし、今後もっと学びたいと思う学習方法だと思った。
Q：（山下先生へ）終声の初声化を書かせる授業をしていたが“ㅇ”パッチムの場合はどう書かせているのか。
A：動かないと教えている。ウソではないかという人もいるが教授ストラテジーとしてはありだと思う。“ㅇ”を動かさないでパッチムとして発音させたほうが自然で正確な鼻音になると経験的に感じている。
Q：ダイアローグのプリントはどのタイミングで配布するのか。
A：会話を聞かせた後に配った。

◆（山下先生から）

韓国語を教えるときの常識を疑うということが大事。文法を分析して積み上げていく方法もいいが何でもかんでもそれではダメ。
・初めから単語を“아요/어요”形の塊で教える。
・“하나，둘，셋，넷”を教えず“한，두，세，네”の連体形だけ教える。…など
生徒が覚えるのに負担が少なく、使用頻度が高く、拡張も広がる方法で教えることが大事。
瀧原さんも最初は抵抗あったようだが理解してくれたことが嬉しかった。他の意見もあると思う。教授法については引き続き議論していこう。
（瀧原さんから）
初めはもう少し文法的なものを学ぶべきだと思っていたが、それは大学で学べばいいと思った。実際の高校生を目の前にして、早く話せるようになりたいというニーズに応えるために、山下先生のやり方を自分なりに工夫して授業をした。普段使えるような言葉を取り入れるようにした。

－総括－

●まとめと意義づけ

1.一日目の高大接続のセッションについて（黒澤先生）

JAKEHS の大会に大学の先生がこれほど参加してくれたことは画期的なこと。
大学の韓国語の先生には 2 つのタイプがあり、たまたま韓国語教師のポストがあるので教えているという先生もいれば、大学教育全体の中で韓国語教育の位置づけについて考え、韓流ブーム後の韓国語教育に危機感を持っている先生もいる。日常的には高大の教師が互いの学校を訪ねたり授業を見ることはほとんどない。
教育実習は一つの高大連携。学生が高校に行くので大学の先生も高校に行く。
高校、大学、社会人と韓国語を学び続ける学生たちがスムーズに移行していけるように手伝うのが教師の役目。また、行政の都合で統廃合されるような不利な状況にならないように、高大の接続をキチンと行い、もっと学生たちの立場に立ったトータルな学習プランを作っていかなければならない。

2.二日目の授業研究について

1）任喜久子先生の発表について（山下先生）
おもしろい発表だった。言語間の教師同士の協同の場を作ったことがすばらしい。第 2 外国語教育を取り巻く状況はきびしいが、複数の言語を学ぶことが生徒の成長、生きる力の育成に結び付くという立場に立つこと。韓国語、中国語とパイを取り合う時代は終わった。複言語主義の立場にしっかり立つべき。各言語間の協同の場を作ったことは非常に戦略的。各学校の状況に合わせて取り組んでいけばよい。

2）瀧原理乃さんの発表について（左美和子先生）
楽しんで学習させるためには使えなければならない。使えるようにするためには少しでも生徒の負担を減らさなければならない。そのために文法的なことを後回しにしたり、大胆にカットすることは中々決心のいることだが、生徒の立場に立って考えることが重要だと気付かされた。

●新会員、久しぶりの参加者の自己紹介と感想コメント、参加者全員の感想コメント

●閉会